

社会保障こぼれ話

年金額の引上げ

(スウェーデン)

スウェーデンの年金制度では、「基本額」を用いて定額方式の基本年金が決定され、また、所得比例方式の補足的年金の年金点や年金額が算出されることになっている。この「基本額」は消費者物価指数の変化を用いて、指数の変化が所定の水準を超える場合には、いつでも「基本額」は修正されることになっており、その修正により、年金額も自動的に調整される仕組みになっている。

1974年4月に、「基本額」はそれ以前の8,100 クローネ(年額)から8,500 クローネに引上げられたが、同年12月には9,000 クローネになり、1975年7月には9,400 クローネになった。1974年4月の修正に用いたのは2月の消費者物価指数で、それは309と記録されており、同年12月の修正は10月の指数328を用いており、1975年7月の修正は5月の指数342を使用している。修正の作業は前回用いた指数と今回用いる指数の間に生じた変化を、そのまま「基本額」にかけて、100 クローネの単位で、新しい「基本額」を決定するが、事実上の作業では、消費者物価指数は小数点以下2位までの数値が用いられることになっている。

それはともかく、「基本額」が引上げられたので、「基本額」に対するある所定の支給率で決定される基本年金も、自動的に調整されて、各年金の年金額は引上げられた。たとえば、正式の年金年齢である67歳で受給できる単身者の老齢年金は、それ以前の8,550 クローネ(年額一以下同)から8,930 クローネに引上げられた。妻に対する主婦手当は

5,400 クローネから7,614 クローネに増額された。また、16歳未満の子供に対する補足的な加算は、子供1人当り2,250 クローネから2,350 クローネになった。なお、実施後約10年を経過したばかりで、まだ未成熟な段階の所得比例年金を受給できない者などに支給される補足的な給付は、1,620 クローネから1,974 クローネになっている。

ところで、この国の年金制度では、前述したように、「基本額」に所定の支給率をかけて、各種の年金額や補足的な給付の支給額が決定される。たとえば、1962年の公的年金法では、単身者の老齢年金は90%、夫婦の老齢年金は妻の50%を加えて140%の支給率を用いられることになっていた。しかし、この支給率はすでに修正されており、今回の「基本額」修正以前では、単身者に95%、妻に対して60%の支給率が用いられていた。しかし、今回の「基本額」修正時に、単身者の支給率はそのまま据え置かれたが、妻に対する支給率は81%に引上げられている。ちなみに、子供に対する補足的な給付の支給率は25%に据え置かれている。なお、所得比例方式の年金を受給できない者に加算して支給される補足的な給付は、次第に引上げられることになっており、「基本額」修正前までに18%になっていたが、今回の修正時に21%に引上げられた。

老齢年金以外の年金も「基本額」を用いて算出されるが、たとえば、廃疾年金の基本年金は単身者に90%、夫婦には妻の加算50%を加えた140%の支給率が、1962年の法律で規定されていた。しかし、現在では、この支給率も単身者に95%、妻に対して81%に引上げられている。子供には、25%の支給率がそのまま用いられている。また、廃疾手当には、「基本額」の30%が支給率として用いられていたが、現在では、この手当

37 頁からつづく

の支給率は完全廃疾が60%（5,640 クローネ）になっており、この支給額は廃疾度により減額される。寡婦年金の支給率も90%であったが、現在では、95%が用いられている。遺児年金の支給率は片親喪失が25%、両親喪失が35%であったが、現在では、前者が据え置きで、後者が40%になっている。7月の「基本額」引上げにより、上述した支給率の支給額はそれぞれ引上げられている。

資料は国民社会保険公社の連絡による。

（社会保障研究所 平石長久）



編集後記

元日を迎え、20世紀の残り4分の1世紀が始まった。ところで、今後の見通しについて、明るい話題は乏しいが、そんなこととは無関係に、元日の空は明るく晴れ、真白い富士の姿が美しかった。そして、松の内には、正月というのに、桜の季節を思わせる陽気が続いていた。幸いにも、春夏秋冬の四季に恵まれたわが国では、人びとの生活の中で、季節は重要な意味をもっている。寒気のきびしい折に、花の季節を思わせる陽気が続くと、奇妙な感じのする人びとも多いだろう。寒いときは寒いように、自然の移り変わりというのは、摂理にかなっている方が、人びとの心も落ち着くのかも知れない。

（平石）

海外社会保障情報 No. 32

昭和51年1月25日発行

編集兼発行人 社会保障研究所

〒100 東京都千代田区霞ヶ関3-3-4

電話03(580)2511

製作所 和光企画出版株式会社